

2021(令和3)年度 第5回コンクリート常任委員会
議事録(案)

日時：2021年1月31日(月)14時00分～15時00分

場所：WEB会議

出席者：下村委員長、山本幹事長

綾野、石田、上田、氏家、内田、大内、河合、河野、古賀、小林、斎藤(豪)、佐伯、坂井、佐藤、菅俣、杉山、玉井、津吉、永元、二羽、濱田、原田、久田、平田、本間、松田、松村、宮里、山口、山路の各常任委員
大島、加藤、田所、細田、前田の各常任委員兼幹事
渡辺、根本の各オブザーバー
小川(事務局)

配布資料：

- 5-0 令和3年度 第5回コンクリート常任委員会 議事次第
- 5-1 2021(令和3)年度 第4回コンクリート常任委員会議事録(案)
- 5-2 コンクリート教育研究小委員会(201委員会)委員構成(案)
- 5-3 締固めを必要とする高流動コンクリートの配合設計・施工指針(案)の審議
- 5-4 2022年度「重点研究課題(研究助成金)」募集について(ご案内)
- 5-5 2021年度コンクリート委員会 一般会計 予算執行状況
- 5-6 令和4年度全国大会研究討論会規格の募集について
- 5-7 本部主催行事開催報告・本部主催行事開催予定
- 5-8 コンクリート標準示方書 電子書籍販売のサービス開始

議事：

1. 委員長挨拶(下村)

下村委員長より、コンクリート標準示方書の電子化が開始された旨の説明がなされた。また、次期示方書改訂も近づいてきており、最終承認機関であるコンクリート常任委員会での積極的な議論と審議をお願いしたい旨の挨拶があった。

2. 2021(令和3)年度 第4回コンクリート常任委員会議事録の承認【資料5-1】

田所幹事より、前回コンクリート委員会常任委員会の議事録(案)の確認があり、異議なく承認された。

審議事項：

1. 第2種委員会の委員構成

(1) コンクリート教育研究小委員会(201委員会)【資料5-2】

細田幹事より、研究小委員会のこれまでの経緯と今後の活動方針について説明があり、委員構成について異議なく承認された。以下に意見を示す。

(久田) 昨今リカレント、リスキリングが重要視されており、実務者に最新技術の大切さを認知してもらえる機会となるように、大学生に限らず対象を広げてはどうか？

(細田) 情報発信の大切さを認識しているので、対象は幅広く考えている。

(二羽) 1期から12期までの成果を引継ぐことはしないのか？過去の活動を評価して活動を再開する

のがよい。

(細田) これまでの活動については幹事団で調査をし、その成果を十分に踏まえたうえで活動方針を定めている。

(本間) 教育内容としては、コンクリートの劣化や材料が中心となるのか。実務的には構造の方が望ましく、特にPC構造が対象として含まれるとよい。

(細田) 教育の詳細について議論するのか、大方針を議論するかはまだ決めかねている。なお、PC構造については、PC工学会に教材があるのでそのあたりも活用していきたい。

(本間) JCIに同じようなものはないのか？

(細田) 調査しきれていない。コンクリートに限らず幅広く土木工学の知識を広めたい。

(佐藤) 7期目の委員会に参加していたが、コンクリートに限らず幅広く土木工学の魅力を教えていたので、引き続きお願いしたい。また、他学協会で教育関係のコンテンツを作成している。それらをかばうことができるプラットフォームを構築するのがよいのでは。

(細田) できる限り他協会の活動についても情報収集したい。

(宮里) 教育企画・人材育成委員会の大学・大学院教育小委員会でも同様の活動をしている。その委員会の情報提供もしたい。

(永元) 中高生相手では土木に興味を持ってもらうのが目的なので、コンクリートに限らず、プロジェクト全体に係る多様な人々の声を聴かせてあげる機会を持つてあげるとよいのでは。大学生相手としては、構造力学を知らない学生がいるなど、過去との違いを感じる部分があるので、実務者としては、そのあたりの教育も重視している。

(細田) 常任委員会での報告頻度について確認したい

(下村) 頻度は多くなくてもよいが、定期的に報告して頂くのがよい

2. 指針案の審議

(1) 締固めを必要とする高流動コンクリートの施工に関する研究小委員会【資料 5-3】

渡辺小委員会委員長より挨拶があり、具体的な条文案については副委員長の加藤幹事より説明がなされた。以下に意見を示す。

(上田) 粗骨材残存率40%という数値が気になった。強度が落ちていないことを根拠としているのか。直感的に40%では不均質さが強度以外の品質に影響するのではという懸念がある。

(加藤) 供試体レベルでの圧縮強度、弾性係数等と粗骨材残存率との関係による。品質の違いを明確にするため、10秒間の締め固めを試験とした。実際には5秒の締め固めを行うものであり、実構造物の品質としては70~80%程度と考えている。ただし、40%という数値が独り歩きすることを懸念している。

(綾野) 締め固めが前提なら、打ち重ねの時間間隔は通常のコンクリートと同様か？

(加藤) 打込の高さも含め従来と同様。

(綾野) 上限下限を示しているが、推奨値が示されているのか？

(加藤) 配合設計では、これまでの実績の範囲などは示している。なお、どのような状況で使うのがよいかについては、358委員会でアンケートをとっており、資料編でまとめる予定

(細田) 現実にはトンネル覆工に使われているが、適用範囲に含まれているのか。また天端は締め固めが強く材料分離しやすい懸念がある。

(加藤) トンネル覆工は含めていない。本指針の対象となる締め固めは棒状バイブレータを前提としている。覆工は型枠バイブレータとなるため、除外している。

山本幹事長より、1月28日にウェブファイルマネージャにアップした指針案とEXCELの意見照会シートを参照いただき、締め切りを2月25日(金)として意見照会すること、また、送付先についてはEXCELと案内メールに記載するとの説明がなされた。なお、特定の委員については、別途重点査読を

依頼する予定であるとの説明がなされた。

3. 重点研究課題の公募【資料 5-4】

山本幹事長より、資料に基づき重点課題の募集について説明がなされた。現在のところコンクリート常任委員からの提案がないことや、活動期間 1 年で分野横断する必要性があるなど難易度も高いことから、幹事会から今回の公募は見送りたい旨の提案があり承認された。

4. その他 特になし

報告事項：

1. 2021年度コンクリート委員会予算執行状況【資料5-5】

山本幹事長より、2021 年度の予算執行状況について報告があり、主な予算執行としては、示方書英訳と国際関連小委員会の活動に使用している旨の説明がなされた。

2. 全国大会の研究討論会【資料 5-6】

山本幹事長より、重点研究課題に採択された課題については、翌年の研究討論会での報告が必要となるため、一宮先生が取りまとめている「新しいアルカリ活性材料を用いた低炭素社会におけるインフラ構築に関する研究」の研究報告を、今年度のコンクリート委員会からの研究討論会としたい旨説明があった。

3. 講習会、成果報告会の開催報告【資料5-7】

田所幹事より、以下の講習会、成果報告会の開催報告があった。

- (1) 既設コンクリート構造物の構造性能評価研究小委員会（355委員会）（第2期）成果報告会
- (2) 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの品質・性能評価に関する調査研究小委員会 成果報告会

4. 講習会、成果報告会の開催案内【資料5-7】

田所幹事より、以下の講習会、成果報告会の開催案内があった。

- (1) コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工・維持管理指針（案）に関する講習会
- (2) Frontiers of Concrete Technology, 3rd JSCE Concrete Committee Webinar Simulation of concrete and reinforced concrete structures using discrete analysis models

5. その他【資料なし】

- (1) 示方書の電子化

前田幹事より、コンクリート標準示方書の電子化について報告があった。

次回開催：

日時：3 月 23 日（水）14：00～17：00 Web 会議＋学会会議室のハイブリッド会議
（議題は、幹事宛 3 月 3 日（木）までに連絡）

以上

【記録：大島】